

2021年11月9日

報道関係各位

11月14日は世界糖尿病デー

シンボルカラーのブルーライトアップ 全国200ヶ所以上で実施

世界糖尿病デー実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・公益社団法人日本糖尿病協会）は、11月14日の世界糖尿病デーに国内の著名な建造物をブルーにライトアップし、糖尿病を正しく理解し、予防につとめることを市民に訴えます。今年は糖尿病の治療に欠かせないインスリンが発見されて100年、また世界糖尿病デーが国連の日として正式に認定されて15年の節目の年に当たるため、各地のブルーライトアップは盛り上がりを見せています。

■ブルーライトアップ

2006年に糖尿病の脅威に関する国連決議が採択されると、世界糖尿病デーを周知する目的で、世界各国で著名な建造物をブルーにライトアップするイベントが始まりました。日本でも、2007年の東京タワーのブルーライトアップを皮切りに、全国に活動が拡がり、2019年にはほぼすべての都道府県で自治体や関連団体などの協力を得て、11月14日のブルーライトアップと市民向けの糖尿病啓発イベントが行われました。

2020年は新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大で、ライトアップを含む多くの集客型イベントは中止を余儀なくされましたが、本年は一転して200ヶ所を超えるブルーライトアップと多くのオンラインイベントの実施が予定されています。

なお、2021年のシンボルライトアップは、第65回日本糖尿病学会年次学術集会の開催地となる兵庫県神戸市のメリケンパークエリアです。

■2021年のテーマ「偏見にNo! 糖尿病をもつ人はあなたと同じ社会で活躍できる人です」

昨年、COVID-19の感染が拡がった初期には、「糖尿病患者は感染しやすい」という誤った情報が一部に流れ、糖尿病に対するマイナスイメージが拡大しました。また、糖尿病をもつことにより、現在でも学校や職場などで不利益を被るケースがあることも報告されています。

今年のテーマは、世の中から糖尿病に対する偏見をなくすために、正しい知識と理解が必要であることを訴えています。

（世界糖尿病デー2021公式ポスター）⇒



第57回全国糖尿病週間 2021年11月8日(月)~11月14日(日)

偏見にNo!
糖尿病をもつ人は、
あなたと同じ社会で活躍できる人です。

近年、糖尿病の脅威は世界的に向上し、
一病累及者が増える人が増えました。
それでもまだ、
糖尿病への誤解や偏見のたもと、
医学や医療、経済、ライフスタイルの動きがたもたれ人びとを、
一緒に奪ってみませんか？糖尿病のこと

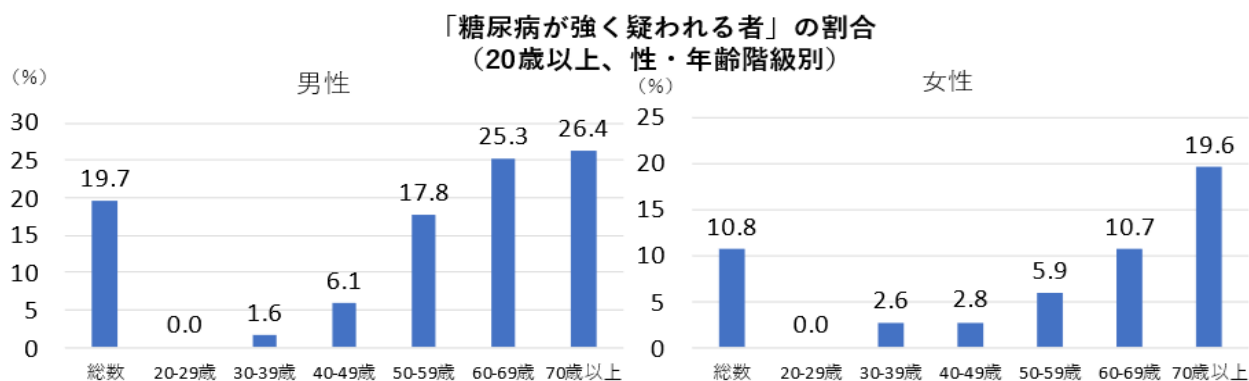
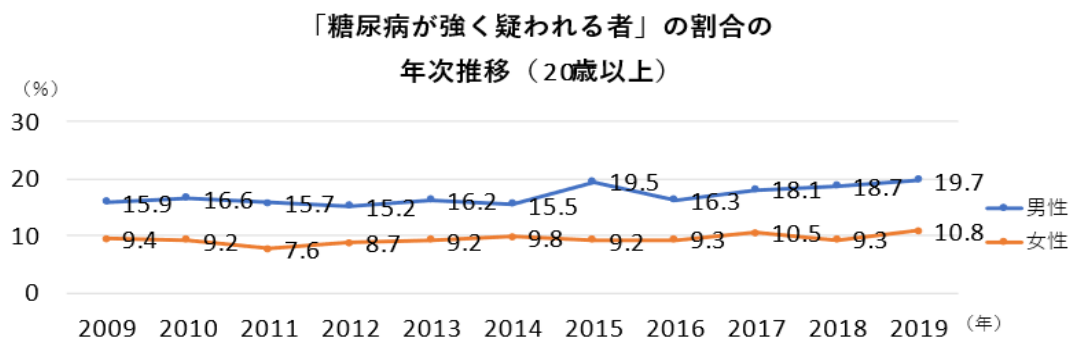
糖尿病には、あなたの正しい理解が必要です。

11月14日 世界糖尿病デー

<http://www.wddj.jp>

■日本の糖尿病の概況

2019年（令和元年）国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性19.7%、女性10.8%でした。ここ10年間でみると、男女とも有意な増減はみられず、年齢階級別にみると、年齢が高い層でその割合が高くなっています。



※「糖尿病が強く疑われる者」の判定

ヘモグロビン A1c の測定値があり、国民健康栄養調査の身体状況調査票の問診において「これまでに医療機関や検診で糖尿病といわれたことの有無」「現在、糖尿病治療の有無」及び「現在の状況」が有効回答である者のうち、ヘモグロビン A1c（NGSP 値）が 6.5%以上または「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者

出典：令和元年 国民健康・栄養調査結果の概要（厚生労働省）

■世界の糖尿病の現況

- ・ 2021年、世界の成人（20-79歳）糖尿病人口は**5億3,700万人**。10人に1人の割合です。中でも、アジア・太平洋地区は、2億600万人と世界で最多となっています。
- ・ **2030年**の世界の成人糖尿病人口は**6億4,300万人**、**2045年**には**7億8,400万人**に増加すると予測されています。
- ・ 世界で**5億4,100万人**の成人が耐糖能異常の状態、2型糖尿病のハイリスク群となります。
- ・ 2021年、糖尿病は**670万人**の死亡の原因となっています。
- ・ 世界の糖尿病治療と合併症管理にかかる医療費は、少なくとも**9,660億ドル（約109兆2,900億円）**にのぼります。これは、過去15年間で316%の増加となっています。
- ・ 世界の成人糖尿病人口の**5人に4人以上（81%）**は、低・中所得国に住んでいます。

出典：IDF Diabetes Atlas 10th edition 2021

■関連ウェブサイト

世界糖尿病デー実行委員会	https://www.wddj.jp/	(ブルーライトアップ／イベント一覧掲載)
日本糖尿病協会	https://www.nittokyo.or.jp/	
日本糖尿病学会	http://www.ids.or.jp/	
日本糖尿病対策推進会議	https://www.med.or.jp/doctor/diabetes/	
厚生労働省 令和元年「国民健康・栄養調査」の結果	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html	
IDF	http://www.idf.org/	
IDF Diabetes Atlas	http://www.diabetesatlas.org	

★世界糖尿病デー（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。2006年12月20日、国連総会において糖尿病の脅威に関する決議が採択され、（UN Resolution 61/225／United Nation）公式な国連デーとなりました。

★ブルーサークルとは

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられます。これは、糖尿病に関する国連決議が採択された翌年2007年から使われるシンボルマークです。どこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、“Unite for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

★世界糖尿病デー実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するために日本糖尿病協会と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。世界糖尿病デーに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントに補助金を支出するほか、多様なメディアを利用して糖尿病啓発を行っています。

★IDFとは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、170カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・日本糖尿病協会もIDFの正会員です。

◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp